

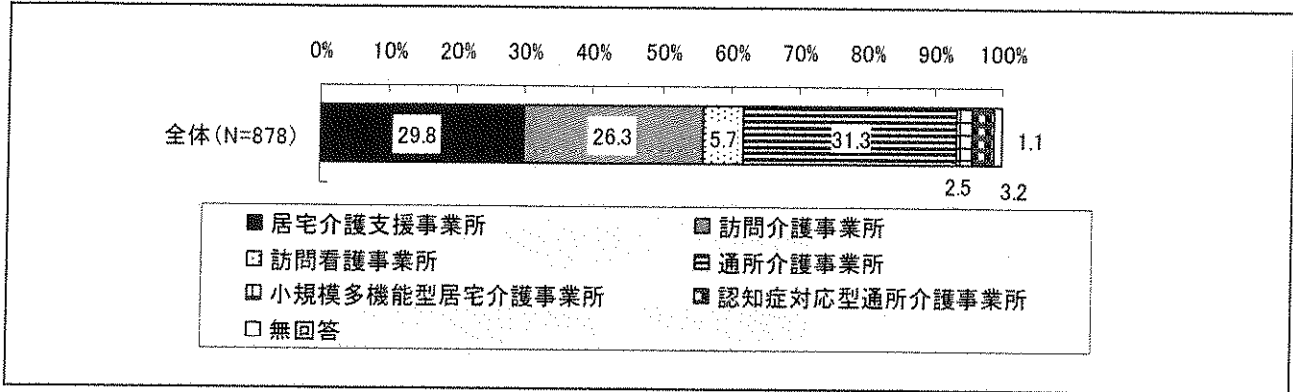
## 第6章 介護保険事業者用調査

---

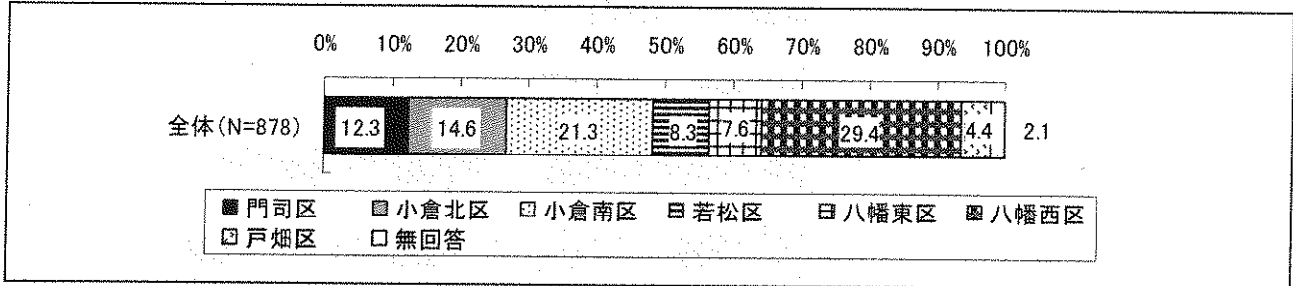
## 第6章 介護保険事業者用調査

### 1. 回答事業者の基本属性

#### (1) 介護保険事業所の種類



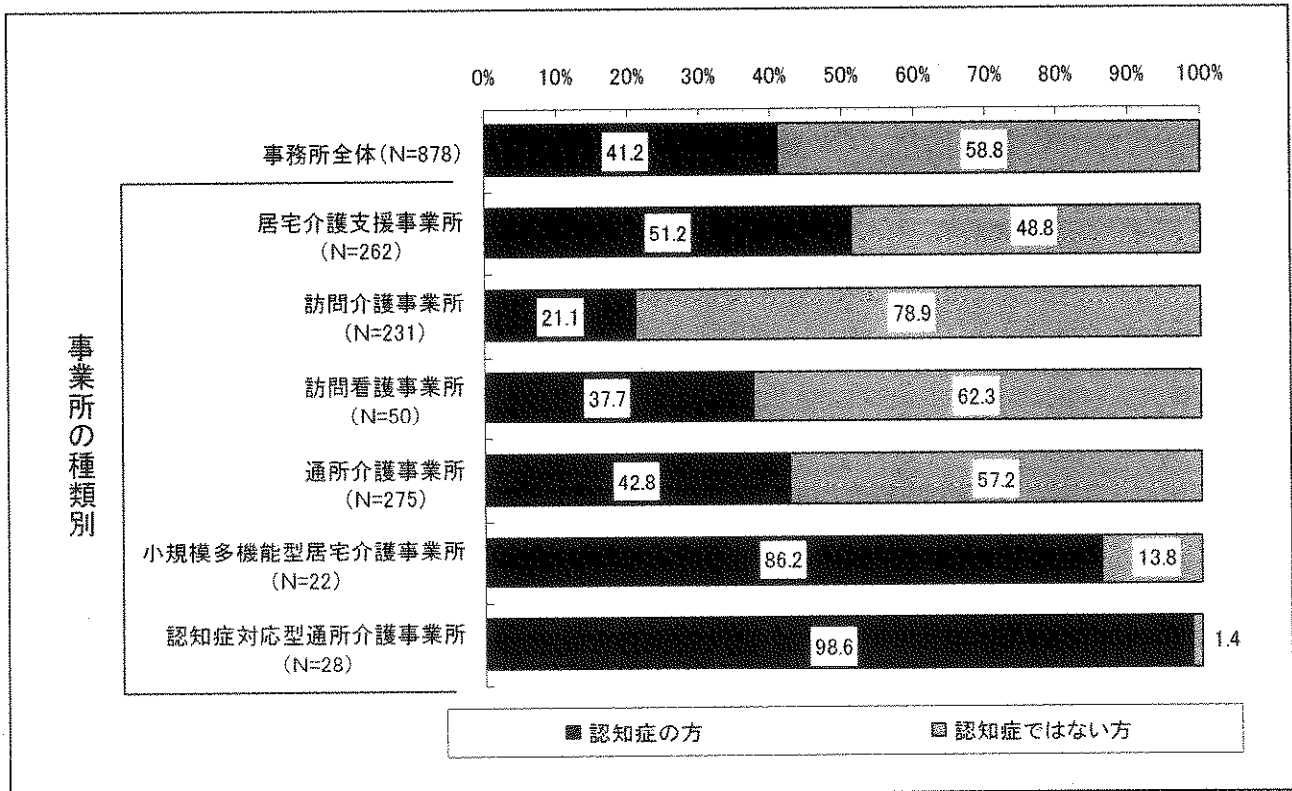
#### (2) 介護保険事業所の所在地



2. 認知症の方の状況

(1) 事業所における認知症の方の割合

- 問1 事業所で担当しているすべてのケース数を教えて下さい。(平成24年7月末時点)  
(数を記入)
- 問2 事業所で担当しているすべてのケース中で認知症(日常生活自立度Ⅱ以上)の方は何人  
いますか。(数を記入)



事業所の全ケース数と認知症の方の人数を回答してもらい、認知症の方の割合を算出した。回答事業所全体では、全利用者のうち41.2%が「認知症の方」である。

《事業所の種類別》

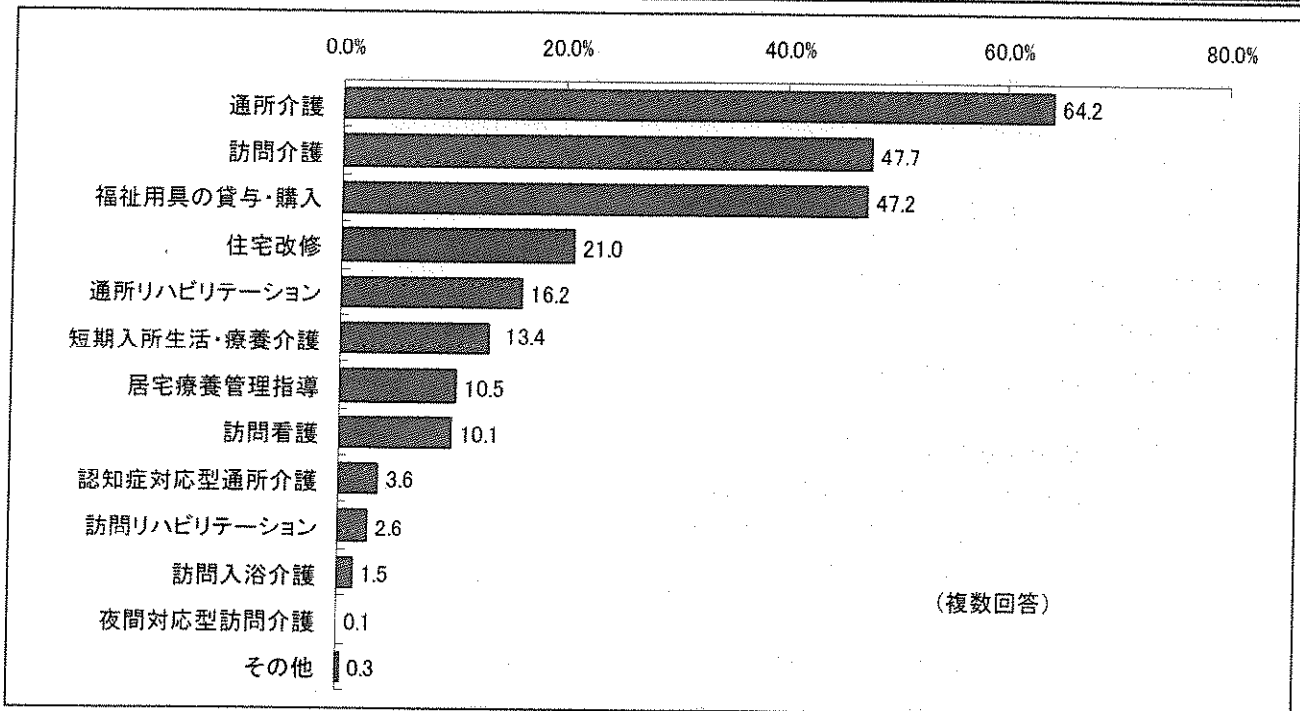
居宅介護支援事業所は利用者の過半数(51.2%)が「認知症の方」となっている。

また、訪問介護事業所では2割、訪問看護事業所・通所介護事業所では3割前後、小規模多機能型居宅介護事業所・認知症対応型通所介護事業所では9割前後が「認知症の方」である。

(2) 認知症の方が利用している介護保険サービス

[居宅介護支援事業所へ]

問3 事業所で担当している認知症の方が利用しているサービスの利用人数を教えてください。(サービスごとに利用人数を記入)



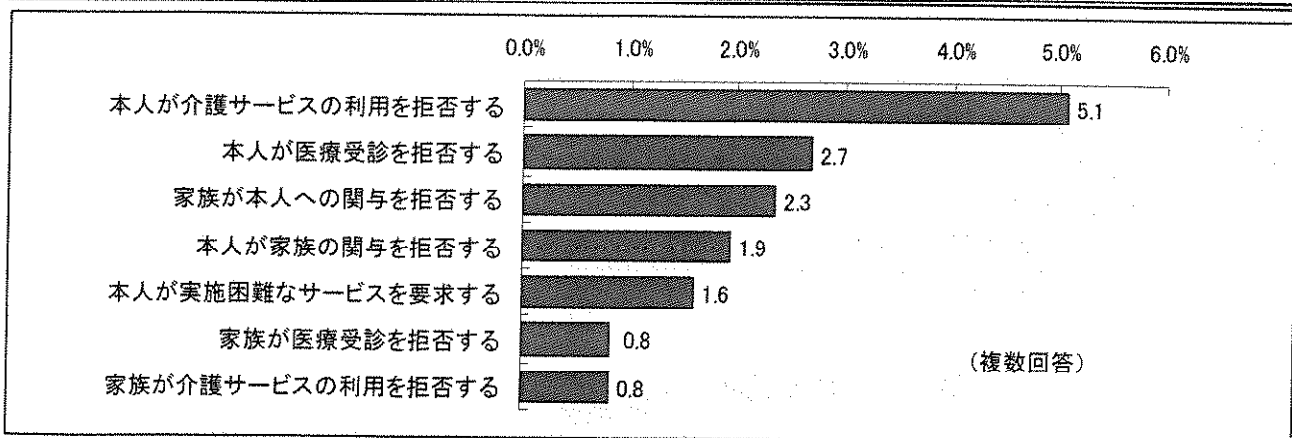
居宅介護支援事業所の方にサービスごとの利用人数を記入してもらい、認知症の方の人数に対するそのサービスの利用割合を算出した。

利用者が最も多いサービスは「通所介護」であり6割以上(64.2%)となっている。また、これに次いで「訪問介護」(47.7%)、「福祉用具の貸与・購入」(47.2%)となっている。

(3) 困難事例の状況

① 困難事例の内容

問4 事業所で対応している認知症の方の事例について、人数をお答えください。(困難事例ごとに利用人数を記入)

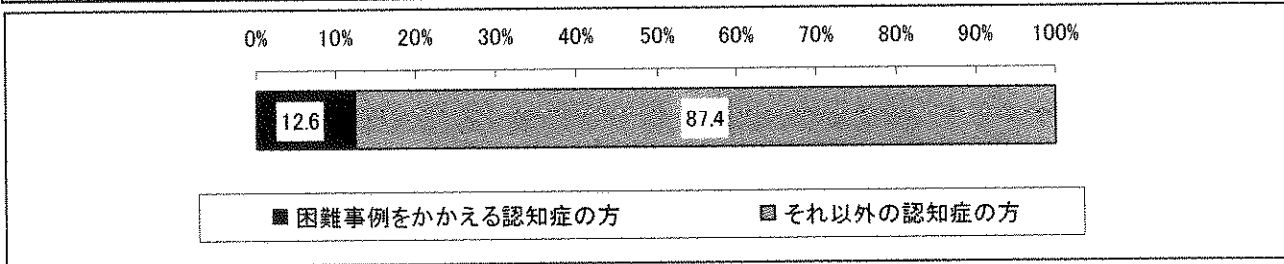


困難事例ごとの人数を記入してもらい、認知症の方の人数に対するその困難事例の割合を算出した。

「本人が介護サービスの利用を拒否する」が5.1%で最も多く、次いで「本人が医療受診を拒否する」(2.7%)、「家族が本人への関与を拒否する」(2.3%)となっている。

② 困難事例を抱えている認知症の方の割合

問5 問4で回答した認知症の方の事例について、実人数をお答えください。(数を記入)

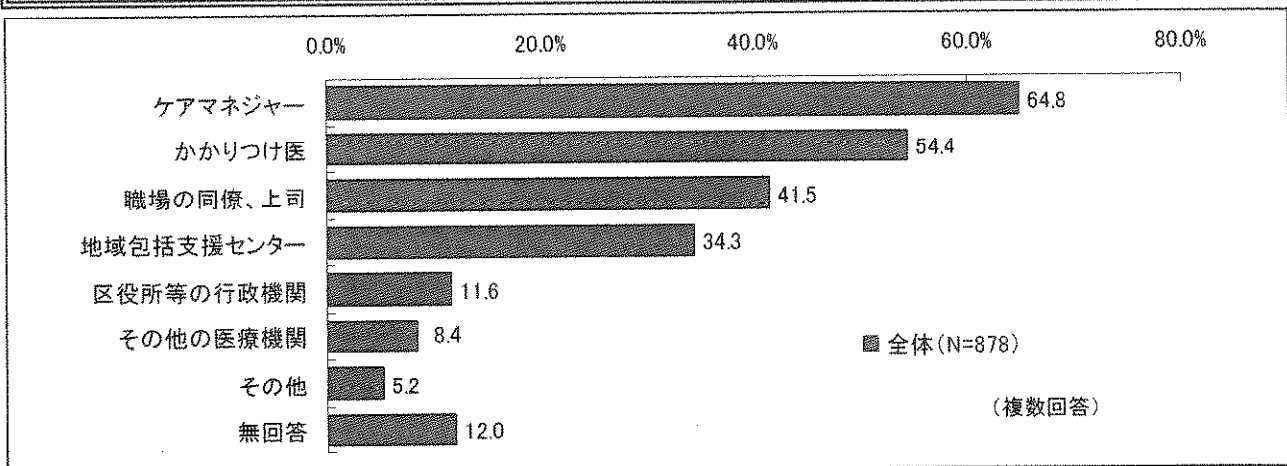


困難事例を抱えている認知症の方の実人数を記入してもらい、認知症の方の人数に対する困難事例の割合を算出した。

「困難事例を抱えている認知症の方」は12.6%である。

(4) 認知症に関する相談先

問6 事業所に対応している認知症の方についての相談先をお答えください。(複数回答可)



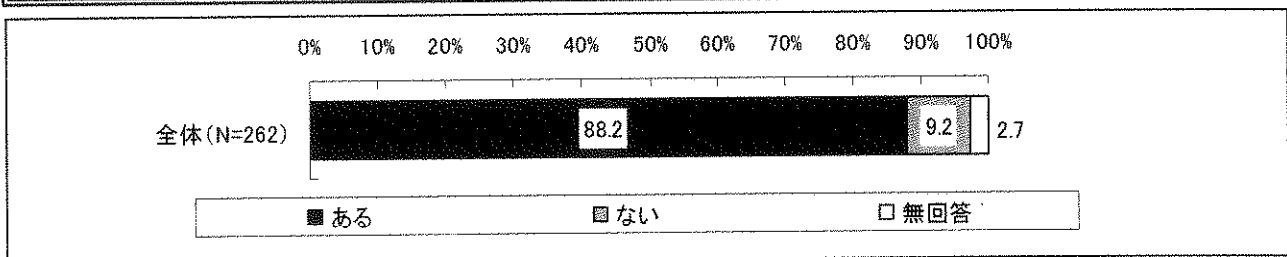
認知症に関する相談先は、「ケアマネジャー」(64.8%)が最も多く、次いで「かかりつけ医」(54.4%)、「職場の同僚、上司」(41.5%)となっている。

3. かかりつけ医との連携

(1) かかりつけ医との連携の有無

[居宅介護支援事業所へ]

問7 かかりつけ医と連携して対応しているケースはありますか。(いずれか一つに○)

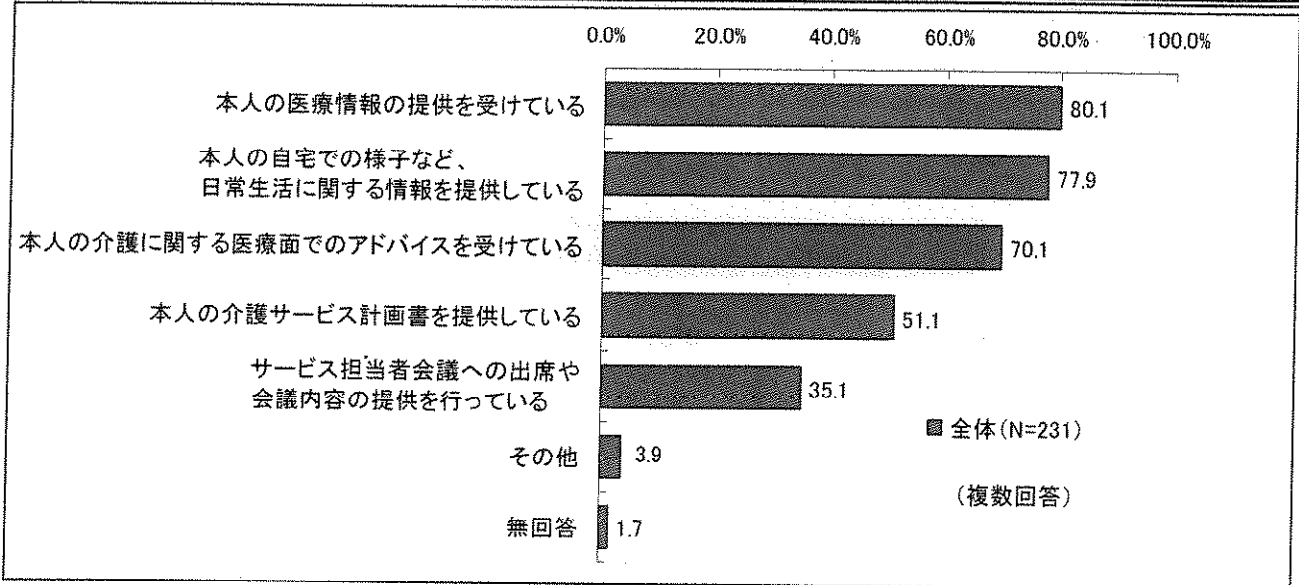


居宅介護支援事業所のかかりつけ医との連携については、「ある」が大半(88.2%)を占めている。

(2) かかりつけ医との連携内容

[かかりつけ医と連携がある事業所へ]

問7-1 かかりつけ医との連携について、具体的な内容をお答えください。(複数回答可)

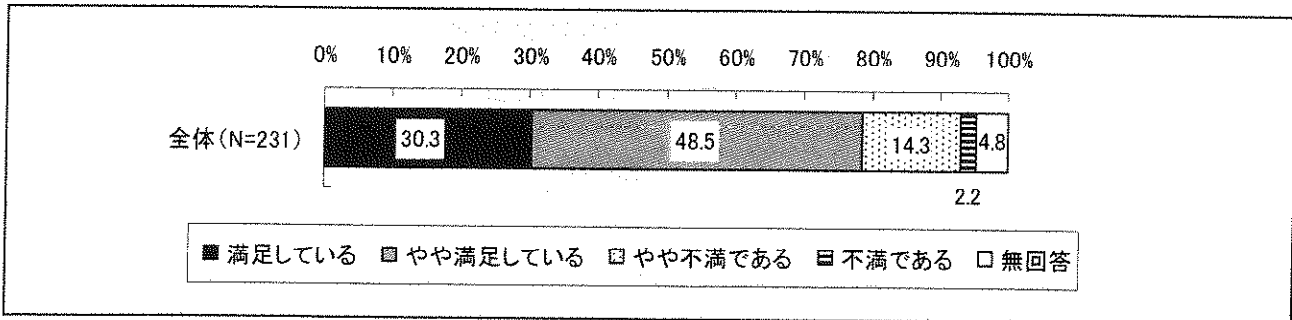


かかりつけ医との連携内容については、「本人の医療情報の提供を受けている」(80.1%)が最も多く、次いで「本人の自宅での様子など、日常生活に関する情報を提供している」(77.9%)、「本人の介護に関する医療面でのアドバイスを受けている」(70.1%)となっている。

(3) かかりつけ医との連携の満足度

[かかりつけ医と連携がある事業所へ]

問7-2 かかりつけ医との連携の満足度をお答えください。(いずれか一つに○)



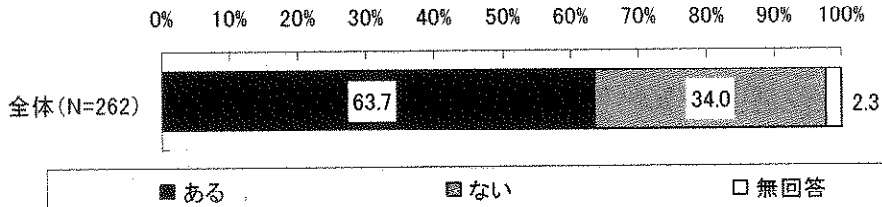
かかりつけ医との連携の満足度は、「やや満足している」が半数弱(48.5%)を占めて最も多く、次いで「満足している」(30.3%)となっており、これらをあわせた『満足』は8割(78.8%)を占めている。

4. 地域包括支援センターとの連携

(1) 地域包括支援センターとの連携の有無

[居宅介護支援事業所へ]

問8 地域包括支援センターと連携して対応しているケースはありますか。  
(いずれか一つに○)

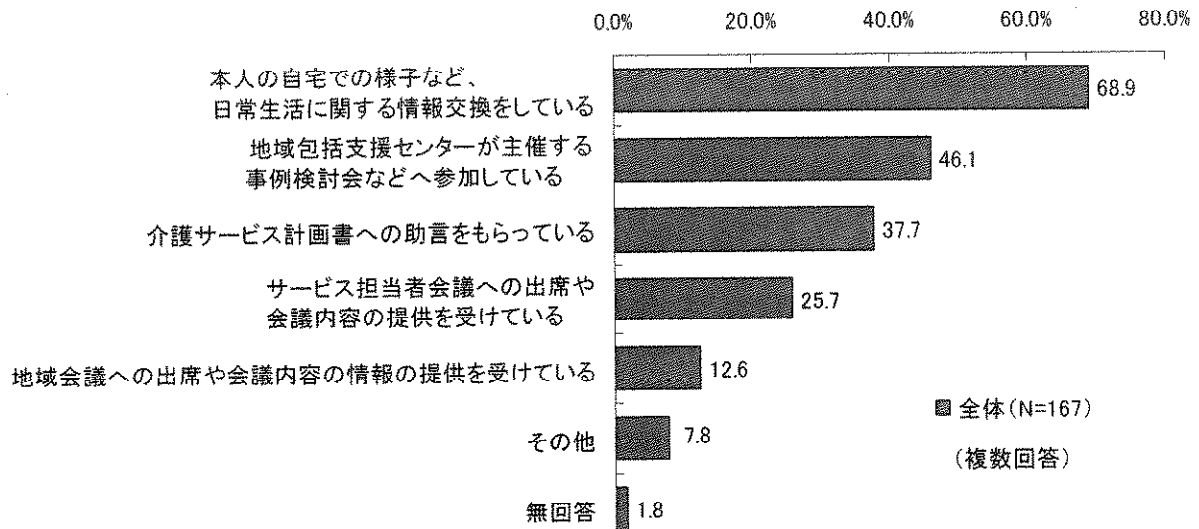


地域包括支援センターとの連携については、「ある」が63.7%であり、「ない」は34.0%である。

(2) 地域包括支援センターとの連携内容

[地域包括支援センターと連携がある事業所へ]

問8-1 地域包括支援センターとの連携について、現在行っている具体的な内容をお答えください。(複数回答可)

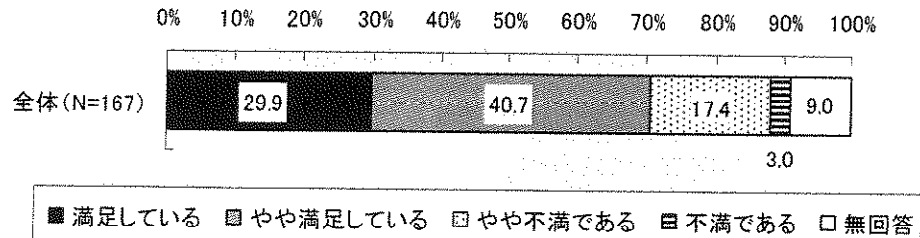


地域包括支援センターとの連携内容については、「本人の自宅での様子など、日常生活に関する情報交換をしている」が7割(68.9%)で最も多く、次いで「地域包括支援センターが主催する事例検討会などへ参加している」(46.1%)、「介護サービス計画書への助言をもらっている」(37.7%)となっている。

(3) 地域包括支援センターとの連携の満足度

[地域包括支援センターと連携がある事業所へ]

問8-2 地域包括支援センターとの連携の満足度をお答えください。(いずれか一つに○)

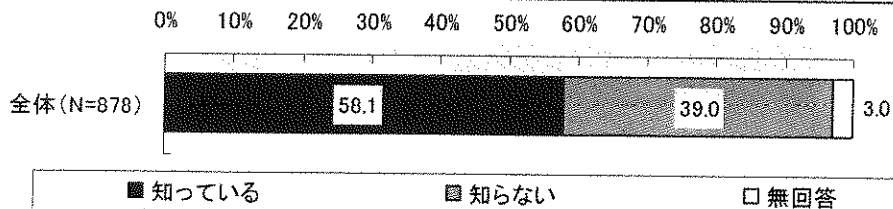


地域包括支援センターとの連携の満足度は、「やや満足している」が4割(40.7%)を占めて最も多く、次いで「満足している」(29.9%)となっており、これらをあわせた『満足』は7割(70.6%)を占めている。

5. 軽度認知障害(MCI)・専門機関の認知度、利用経験

(1) 軽度認知障害(MCI)の認知度

問10 軽度認知障害(MCI:mild cognitive impairment)を知っていますか。(いずれか一つに○)

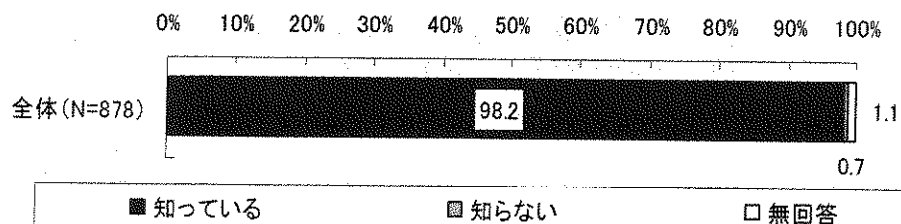


軽度認知障害(MCI)の認知度については、「知っている」が6割弱(58.1%)を占めており、「知らない」(39.0%)を上回っている。

(2) ものわすれ外来について

① ものわすれ外来の認知度

問11 ものわすれ外来を知っていますか。(いずれか一つに○)



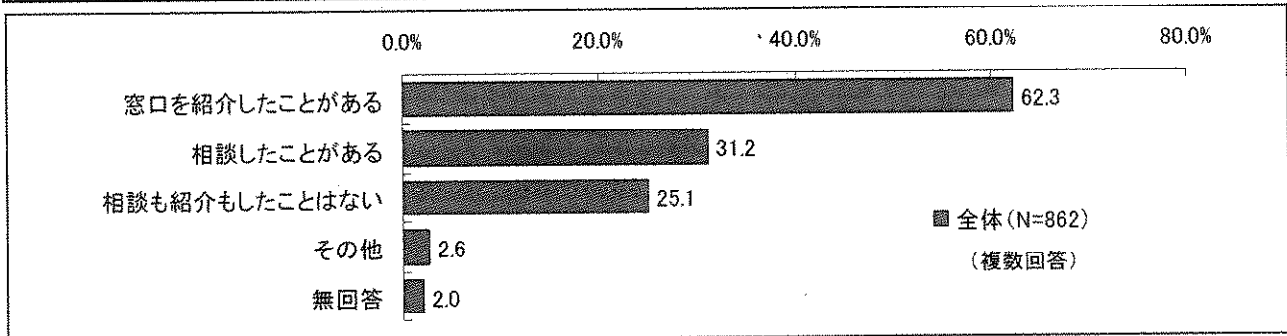
ものわすれ外来の認知度については、「知っている」が98.2%と大半を占めている。



② ものわすれ外来の利用経験

[ものわすれ外来を知っている事業所へ]

問11-1 ものわすれ外来協力医療機関に相談したり、窓口を紹介したことがありますか。  
(複数回答可)

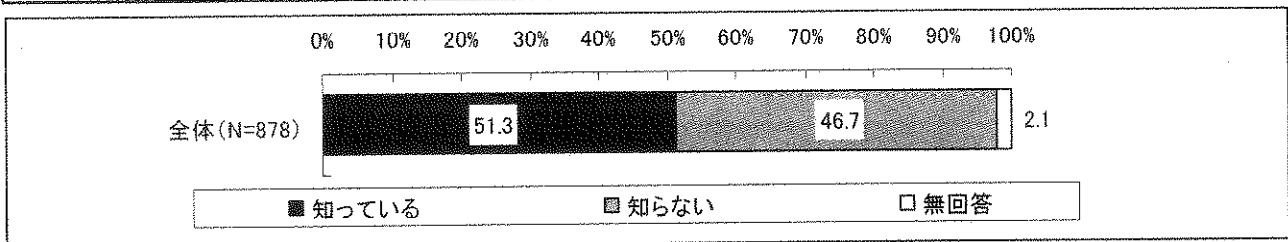


ものわすれ外来を知っている事業者にその利用経験について尋ねたところ、「窓口を紹介したことがある」が6割以上(62.3%)で最も多く、次いで「相談したことがある」(31.2%)、「相談も紹介もしたことはない」(25.1%)となっている。

(3) 認知症疾患医療センターについて

① 認知症疾患医療センターの認知度

問12 認知症疾患医療センターを知っていますか。(いずれか一つに○)

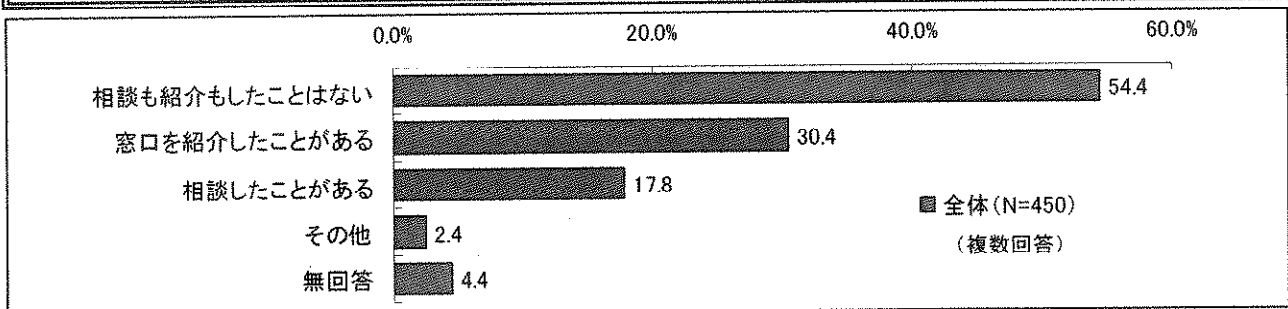


認知症疾患医療センターの認知度については、「知っている」は51.3%であり、「知らない」(46.7%)をやや上回っている。

② 認知症疾患医療センターの利用経験

[認知症疾患医療センターを知っている事業所へ]

問12-1 北九州市には小倉蒲生病院内にありますが、個別に相談したり、窓口を紹介したことがありますか。(複数回答可)



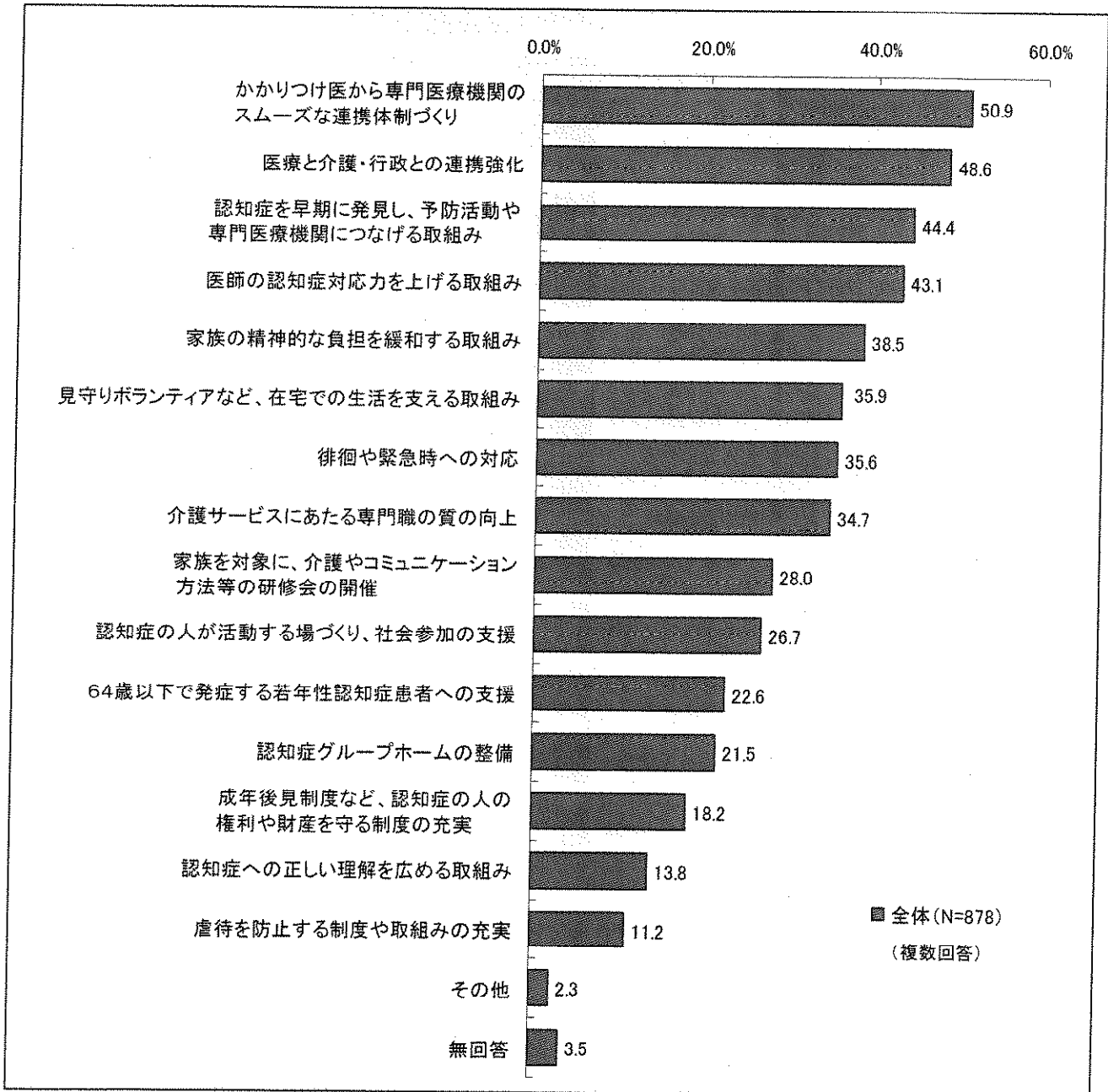
認知症疾患医療センターを知っている事業者にその利用経験について尋ねたところ、「相談も紹介をしたことはない」が半数以上(54.4%)で最も多く、次いで「窓口を紹介したことがある」(30.4%)、「相談したことがある」(17.8%)となっている。

## 6. 認知症対策の重視度

問14 今後、認知症対策を進めていくうえで、北九州市はどのようなことに重点を置くべきだと思いますか。下の記入欄に最も重点を置くべきと考えるものから順に、5つまで番号をあげてください。

## ■複数回答として集計

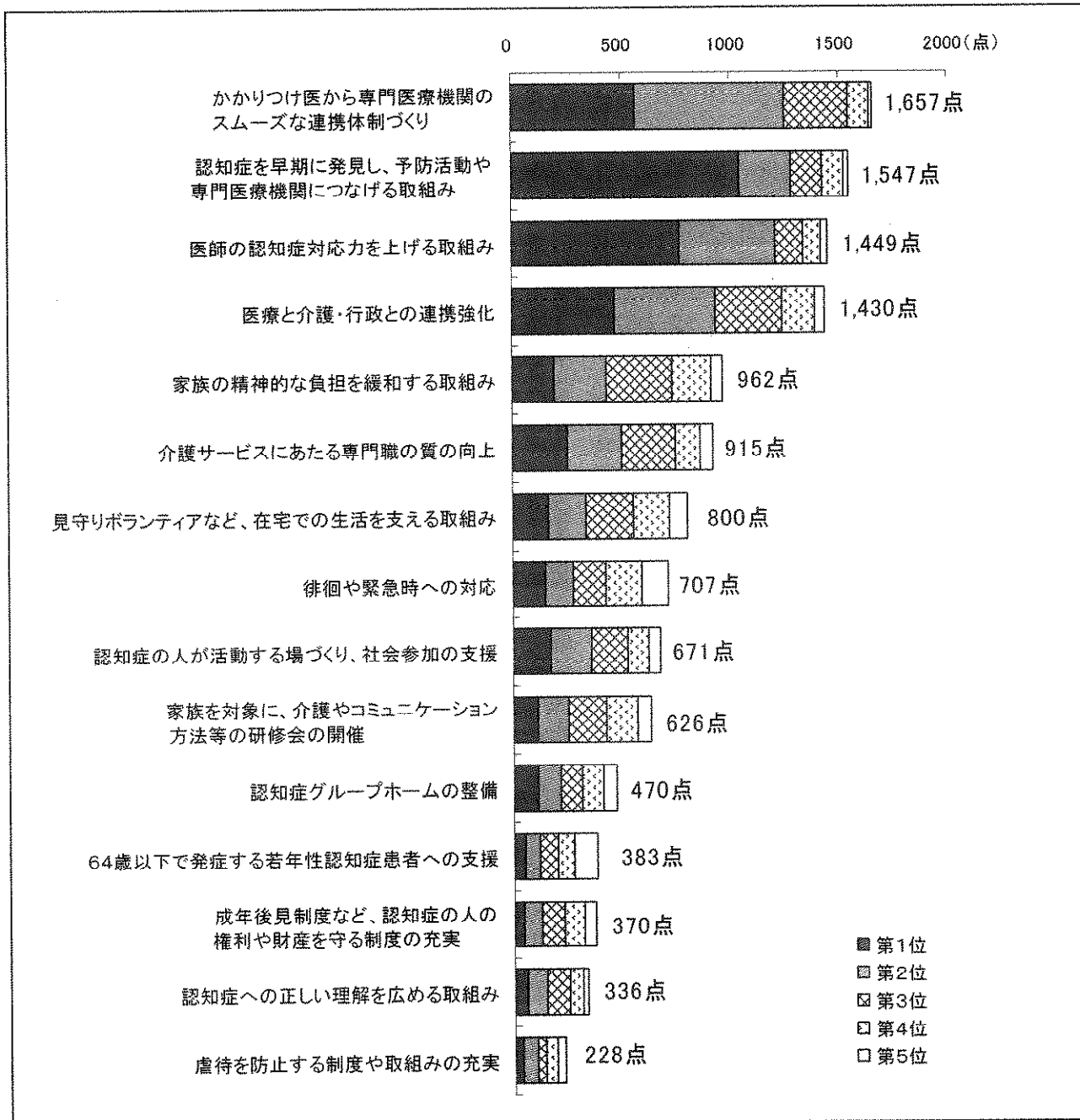
※第1位～第5位の回答順位の強さを度外視し、設問文を「重点を置くべきと考えるものに5つまで○を付けてください」と読み替えて集計している。



認知症対策として北九州市が重点を置くべきことは、「かかりつけ医から専門医療機関のスムーズな連携体制づくり」が半数 (50.9%) で最も多く、次いで「医療と介護・行政との連携強化」(48.6%)、「認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療機関につなげる取組み」(44.4%) となっている。

■重視度

※各選択肢が第1位～第5位に選ばれた度数（ボリューム）に、順位の強さ（第1位＝5点、第2位＝4点、第3位＝3点、第4位＝2点、第5位＝1点）を配点した重視度を算出。ここでは4,390点満点中の点数となる。



重視度が最も高いのは「かかりつけ医から専門医療機関のスムーズな連携体制づくり」（1,657点）である。また、これに次いで「認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療機関につなげる取組み」（1,547点）、「医師の認知症対応力を上げる取組み」（1,449点）、「医療と介護・行政との連携強化」（1,430点）となっており、これらは以下に400点以上の差をあけて高くなっている。